

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O175300367		
法人名	有限会社 浜本		
事業所名	グループホーム・ひがしもこと		
所在地	北海道網走郡大空町東藻琴538番地の4		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平成24年12月24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの施設の周りには自然豊かな環境があり静かに生活するには最適な土地です。大空町は基幹産業である農家に従事する方が多く時期になればたくさん野菜を頂きます。それらの頂き物を利用者の方と一緒に調理をして季節を楽しみながら頂いています。秋には藻琴山の紅葉、川にはたくさん鮭が帰ってきます。ここには都会では味わえないゆったりした時間があることが施設の自慢であり、利用者の方にたいして最高のサービスだと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=017530036](http://index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=017530036)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成24年11月22日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東藻琴地区の郊外に、広い敷地を有した平屋建て1ユニットのグループホームになっています。開設時より地域との関わりを持ちながら、家庭的な安らぎを提供し、その人らしく暮らして行く為の支援に取り組む事を理念に掲げ、更に介護目標を『ゆっくり・楽しく笑顔で・出来るだけ自分で』と定めており、管理者は理念に沿い、心にゆとりを持って利用者に接する様職員に伝え、職員は利用者をもう一つの家族との思いを持って、ありのままの利用者を受け入れ家族的な生活の場の提供に努めています。当事業所は地区唯一のグループホームとして行政や同地区の特別養護老人ホームと連携を図り、行事の際には利用者が訪問する等、交流の機会を持っています。3月に新管理者となり管理者は様々なアイデアを持ちながら、利用者にとって又、職員にとってより良い事業所である事を目指し、代表者と話し合いながら実現に向けて取り組んでいます。回廊式になっている事業所内は明るく、ゆったりとした雰囲気、ペランダにはウッドデッキが設けられ開放感のある造りになっており、大きな窓からは遠く山々が眺められ、四季の移り変わりを感じられる環境となっています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23.24.25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9.10.19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18.38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36.37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30.31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有しており、地域に密着したサービスができるように話し合う機会を設け実践につなげている。	開設時からの理念に加え、介護理念を作成し、玄関、事務室、談話室に掲示し、理念に沿ったサービスの実現に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に利用者の方と参加する機会を設けている。	町内会に加入し、回覧板等で情報を共有し、近隣住民と災害時の協力関係を築いています。季節の野菜を頂いたりと日常的に交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の地域ケア会議に参加しており、町内の認知症の方の支援について会議を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は運営推進会議を行っていないため、運営推進会議を活かせていない	職員の交替もあり、今年度はまだ未実施となっております。	事業所のサービス向上と事業所への理解を深めて頂く手段の一つとして運営推進会議の定期的な開催に取り組み、更に情報を利用者、家族、構成メンバー、職員と共有して行く事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の職員と密に連絡する体制が構築できている。	地域ケア会議や相談、情報交換等、常に行政と連携を図りながら、サービスの質の向上に努めています。町主催の文化祭に利用者の作品を出品しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で勉強する機会を設けており、身体拘束廃止に取り組んでいる。	管理者は、ミーティング時にありのままの利用者を受け入れることの大切さを話し、身体拘束の理解へと繋げています。安全の為止む終えない場合は家族と相談しながら、より良い方向を見出す様に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を開催し、高齢者虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後利用が増えると思うので今後研修や勉強をする機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については担当者が訪問し詳しく説明をしている。もし分からないことがあったら再度訪問し説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と外部機関の連絡先を周知している。もし意見があった場合は改善できるように会議の開催も検討する。	家族の面会時に利用者の日常の様子を伝え希望や要望等何でも話し合える関係を築くように努めています。毎月、利用者の様子を伝える事業所便りを発行すると共に遠方の家族には、電話で様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催している。もし意見があった場合は運営に反映するように努力している。	管理者は会議時や日常業務時、休憩時間を利用して職員の意見や提案を聞き取るように努め、運営に反映させています。又、職員の育成や就業環境整備の様々なアイデアを代表者に提案しています。	代表者、管理者は職員の提案を運営に活かす様努めていますが、職員の研修会参加は少ない状況となっています。内部・外部研修の充実を図り、職員のスキルアップ向上へと繋げる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在検討中		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在検討中		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在検討中		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にアセスメントで利用者の方の「意向を傾聴するように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族・本人と話す機会を設けており、少して意向に沿ったサービスが提供出来るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に家族・本人と話す機会を設けており、他のサービスについても説明するように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と接する時間を出来るだけ設け、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に家族と連絡を取り合い、共に支援していく関係を築いていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの場所や人間関係が途切れないように家族と共に支援している。	秋祭りに出掛けたり、馴染みの商店への買い物等利用者のこれまでの人や場所との関わりの継続を家族の協力も得ながら取り組んでいます。友人が訪ねてきた時には快く迎え、何時でも訪ねて来れる様配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように職員が間に入り仲介に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族と密に連絡ができるように相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望や意向を把握するように話す機会を設けている。	管理者、職員は利用者の心を大切にした対応を心掛け、会話やさりげないしぐさ、表情から希望や意向の把握に努め可能な限り実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ生活歴、生活環境、他のサービスを把握できるように他の福祉事業者と密に連絡をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ現状の把握が出来るように、家族。他の職員と話す機会を設けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、本人と話し合いプランを作成している。	カンファレンス、定期的なモニタリングを実施し、利用者の現状に即した介護計画を作成し、家族に説明を行っています。	サービス担当者会議の開催等、更なる関係者の意向を反映した介護計画の作成と、介護計画を反映した個人記録作成の工夫に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、管理日誌、申し送りなどを確認し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・本人と話す機会を設けており、既存のサービスに捉われないサービスが出来るように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議に参加しており、他の地域資源の把握と、豊かな暮らしが提供出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の意向に従って行なうようにしている。あと他の医療事業所と関係を構築するように努めている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で状況に応じて家族、事業所が協力して適切な医療に繋がっています。また、訪問看護ステーションと連携し、健康管理や医療面での相談、助言など、適切なサポートが得られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部に訪問看護を委託している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と密に連絡をする機会を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でかかりつけ医、看護師、家族と話し合いの機会を設けており、関係者で支援出来る体制を構築している。	重度化や終末期については必要時に医療関係者や家族等で話し合い、同意書を交わす体制を整えています。緊急時に向け、職員は毎年救命救急の受講や管理者によるシミュレーションを通じて実践力を身につけています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	救命講義を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っている。その際に消防職員も参加してもらっている。	消防署の協力を経て、年2回、夜間を想定した避難訓練を実施する中で職員は通報、初期消火、避難誘導などの訓練を行っています。自動通報装置には近隣住民の登録の協力が得られています。また、避難場所についても明確になっています。	今後は地域住民の参加、協力を得た避難訓練を実施すると共に、火災だけでなく、他の災害時に向けた訓練や持ち出し品等の整備を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員で利用者の方に配慮した声掛けをするように注意している。	管理者は職員に守秘義務への徹底を伝えています。また、個人情報の取り扱いについては契約時に家族と同意書を交わしています。「利用者のいやがることはしない」を基本に尊厳に配慮したケアを心がけています。	トイレなど援助が必要なときの声かけやパット類の名前が特定できない工夫を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定が出来るように、職員は側面から支援するように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の体調やペースに配慮して支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にあった身だしなみが提供出来るように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れたり、食後に利用者の方に食器拭きなどを手伝ってもらっている。	献立は栄養バランスに配慮したメニューで、職員は旬な食材や季節が感じられるよう工夫しています。下準備や食器拭き等を利用者と共に行い、食事を楽しめるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を表につけて確認しており、水分量と食事量が摂れるように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員が洗面所に誘導しうがいと口腔ケアをもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄感覚をするため排尿時間を表につけている。オムツ使用者もトイレに誘導し少しでも排泄がトイレで出来るように支援している。	排泄記録(温度表)を基に、パターンを把握し、声かけ、誘導で出来るだけトイレでの排泄に繋げています。夜間は居室でポータブルトイレの使用など、利用者にあった支援に努めています。また、管理者はパットの当て方など、身につけた知識を職員に伝え、サービス向上を図っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように適度な運動、適度な水分、食物繊維の多い食材を献立に取り入れたり工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本午後だが、利用者の希望があれば入浴の日時、時間の変更もある。	入浴は概ね週2回を基本とし、利用者の体調や希望に添って取り組んでいます。入浴が難しい場合は無理強いつけずタイミングや声かけ等、柔軟な対応に努めています。入浴剤を使うなどで楽しめる工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して眠れるように環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルと効能を記載したファイルを確認出来る場所に設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族と利用者の方と話す機会を設け、本人の生活歴を把握し気分転換につながる事があれば実践できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望にそって外出できるように支援に努めている。	外気浴や散歩などの日常的な外出や芝桜見学、町内の行事(老人福祉大会、盆踊り、秋祭り、文化祭等)に積極的に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人に相談し、お金の所持についてはそのつど適切に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・本人に相談し、連絡に関してそのつど適切に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が少しでも快適に過ごせるように、音、湿度、温度、光などに職員が配慮するように心掛けている。	事業所内は回廊式の広々とした開放感のある造りで、天窓や居間の大きな窓から陽が差し込み、明るく、壁には利用者と職員と一緒に作った貼り絵や外出時、行事の写真、季節の花が飾られ、居心地よく過ごせる空間になっています。ベランダには大きなウッドデッキが設置されており、日光浴等を楽しむ場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人になれたり、家族や他利用者と話せるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、少しでも本人が使い慣れた物を設置できるように努めている。	居室にはクローゼットが完備されており、利便性の良い空間で、家族の写真やテレビ、ベッド等の使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、それぞれが安心して過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が安全で自立した生活が送れるように職員が配慮している。		